

保護者各位

津田このみ学園 三宅分園

新しい生活スタイル 6月

毎日、職員も子どももマスクを着けて登園することが当たり前ようになってきています。園では、2歳児未満の子どものマスク着用は呼吸の負担になること、熱中症のリスクが高まることなどからマスクをはずすようにしています。また、手指の消毒も手荒れ等により行えないお子様もおられます。手荒れがひどい方は申し出てください。

園は、濃厚接触で感染させる/するリスクがある場所です。そのことをご理解いただいて登園しておられると思います。6月になり、園児がたくさん登園し、保育室が密にならないように子どもの人数を調整し、室内と戸外に分かれて遊び・給食・午睡を行っています。しかし、これから梅雨期を迎え、全員と一緒に過ごす日が増えてきます。保育室はエアコン使用時も窓を開け、玄関のスペースや園庭のテントも有効に使うつもりですが、3密の回避は限定的です。

特別保育終了後の土曜日の希望保育も以前より人数がずいぶん減っています。これは、保護者の方がリスクを少しでも減らすために対応されているためだと思います。

できる限り保育時間を短くする、子育てを家族で支える、そのことが子どものよりよい育ちに大きく影響を与えるであろうということが連絡帳の記述からも読み取ることができます。

園は、子ども同士の関わりを大切に、保育の大切な部分が抜け落ちることのないようにしていきます。子どもは優しく抱っこされて、幸せを感じたり、相手への信頼を深めたりして「オキシトシン」というホルモンが増えます。これは直接触れ合っていないだけでも声を聴くだけでも増えることが最近の研究でわかっています。新しい保育のやり方を考え、保護者も職員も働き方などこれまでの生活スタイルの見直しも含め、改善していくようになるだろうと考えています。

コロナ禍で大人の世界もICTが大活躍し、子ども世代も少なからず影響を受けています。幼児教育・保育もこの時代を生き抜く力をもつために見直しを図る部分、見落としてはならない部分をしっかり検証し、学者の指導も仰ぎながら体験を積み重ねます。「密を避ける努力」は子どもも保育者も同じです。保護者の協力も得ながら、子どもも保育者（働き方を含め）も「実りある日々」を過ごしたいと思いません。

